

檣原市第 4 次総合計画 検討資料

基本構想（政策体系）

1 まちづくりの理念

「人とともに、歴史とともに、やさしく強いまち かしはら」

市民をやさしく包み込む樫原、市民を強く守る樫原を、豊かな歴史文化とともに人と人との思いやり支え合いながら、市民と行政が協働して創りあげていくことをまちづくりの理念とします。このまちづくりの理念は不変のものとして、第4次総合計画でも承継していきます。

2 将来ビジョン

将来にわたる住みよいまちづくり、持続可能なまちづくりに向け、市民、事業者、行政が、それぞれの暮らしや仕事を通じて、それぞれの役割を果たしながら協働でまちづくりを進めていく共通の指針として、将来ビジョンを次のように定めます。

「はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら」

「はじまりから未来へ」には、2つの意味があります。1つ目は日本国はじまりの地という樫原らしさと歴史の深さを次世代に継承しながら、来たる超スマート社会にも対応していくこと。2つ目は人生百年時代を迎える中で、人の一生の表現として出生から約百年、安心して暮らしていくことができる市になることを目指すことです。

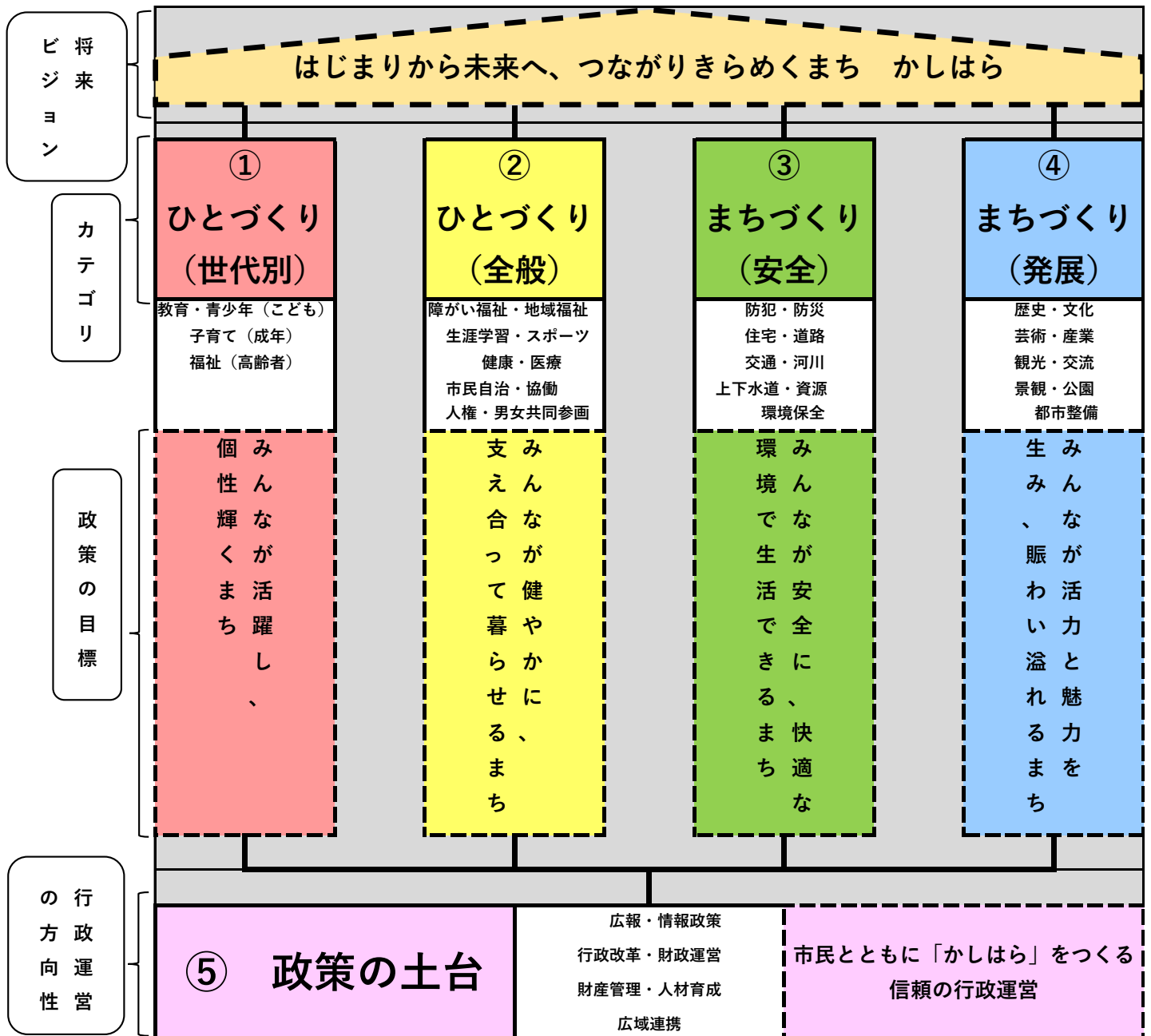
「つながりきらめくまち」は、本市と関わる全ての人、人や物、縁、歴史、自然などにつながることで、活気があふれてきらめくような人中心のまちを目指すことを意味します。

この樫原に住むことに喜びや誇りを感じることや、この地を訪れる人にも来てよかった、住んでみたいという魅力を感じるまちにしたいということから、この将来ビジョンを考えました。

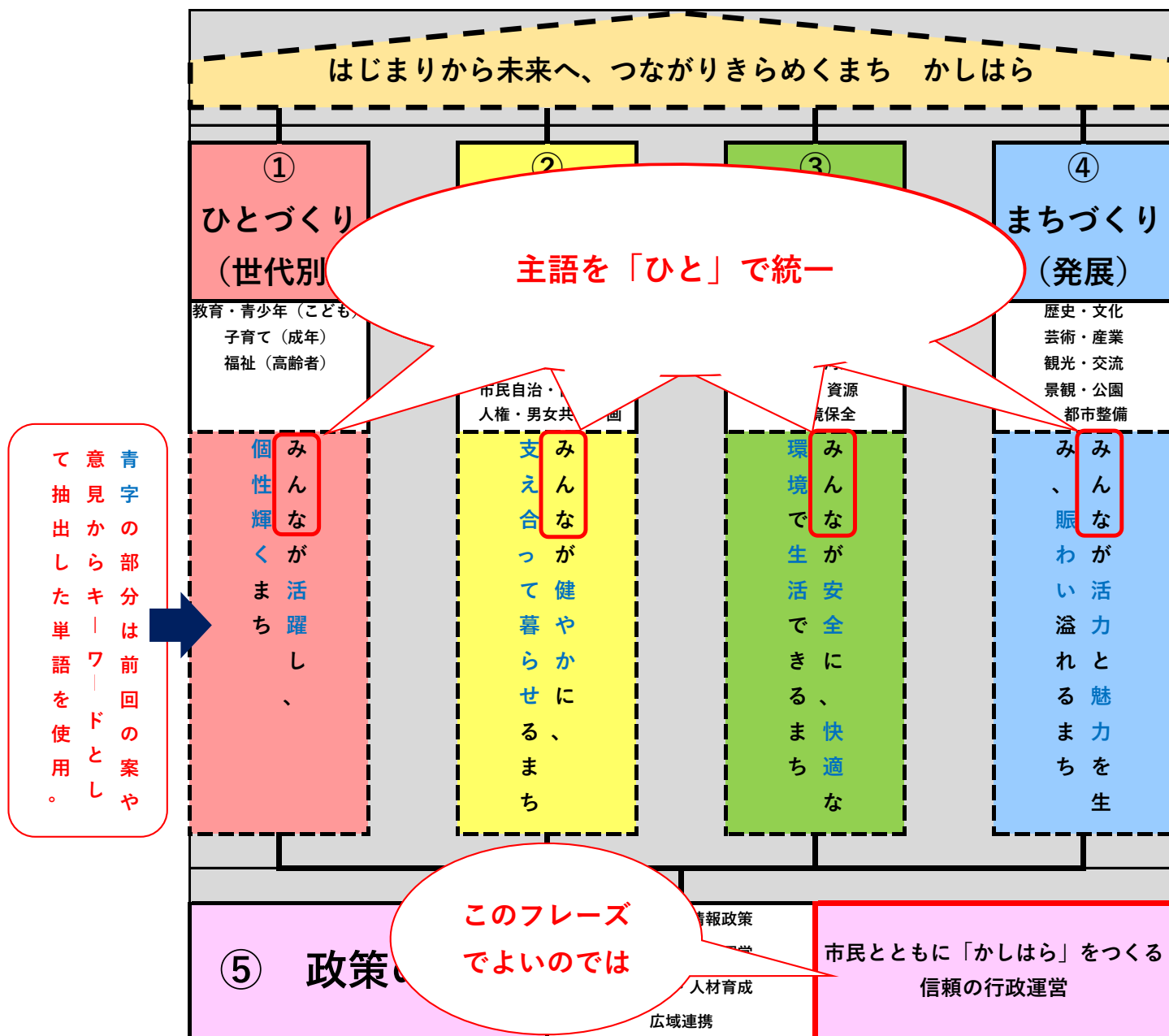
将来ビジョンについては総合政策審議会においてもこの案でよいとの結論に至りました。しかし、政策の目標については以下のような意見が出ました。

- ・「活躍」「健やか」など一言で表せるものがよい。わかりやすい表現がよい。
- ・「ひと」「まち」など何が主語なのかわかるようにする方がよい。主語を統一しておくのもひとつの方法である。
- ・「ひと」を中心とするキーワードが入っている方がよい。
- ・現在提示されている案からキーワードを抽出して考えてみてはどうか。
- ・土台については『市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営』でよい。

政策の目標のフレーズ案



審議会における意見の反映について



カテゴリ		施策	政策の目標案
将来ビジョンのフレーズは全ての政策に含 まれているので、使用しません。	① ひとづくり (世代別)	各世代を対象とした 施策	1 多世代が 活力 を生み、 輝き 続けるまち 2 子どもから大人まで、みんなが きらめく まち 3 多世代の誰もが 活躍 し、 輝き 続けるまち 4 多世代の誰もが活躍できるきらめきのまち
	② ひとづくり (全般)	市民全体を対象とした 施策	1 みんなが 安らぎ 、 暮らし 営めるまち 2 互いにこころ結びあい、 つながり に安らぐまち 3 みんなが 健やかに 、 安心して 暮らせるまち 4 みんなが健やかで安心に暮らせるまち
	③ まちづくり (安全)	安全安心な生活基盤 をつくる施策 (主にハード)	1 人と 環境 を守り、 持続 できるまち 2 安全 で美しい、 未来 に続く 快適 なまち 3 安全で快適な 生活 が持続できるまち 4 安全で快適な環境が持続できるまち
	④ まちづくり (発展)	まちの魅力・活力を 生む施策 (主にソフト)	1 一人ひとりがつながり、 魅力 を 共創 するまち 2 活力 と都市魅力を生み続ける、 はじまり のまち 3 活力と 賑わい あふれる魅力あるまち 4 活力と賑わいのある魅力あふれるまち
	⑤ 政策の土台	行政内部に関すること。各政策を実行して いく姿勢。	1 工夫ある行政運営 2 市民とともに「かしはら」をつくる 信頼 の行政運営 3 工夫ある 信頼 の行政運営 4 市民が信頼する自律的な行政運営

子どもの教育やママ世代や高齢者の活躍が見込まれるなか、世代に応じた支援により、「個性」を活かした「活躍」ができると考えられるため使用。

医療・健康面では「健やか」がわかりやすく、福祉・協働は「支え合い」がわかりやすいと思われるため使用。

「安全」「快適」な「環境」で「生活」できることが望ましいが、両立の難しい「安全」「快適」「環境保護」のバランスを考慮したフレーズにする。

人が生み出す「活力」や「魅力」がまちの「賑わい」をつくるという関係性があると考えられるため、そのキーワードを使用したフレーズにする。

2番で良い。行政の信頼だけでなく、データトラストなどの情報の信頼も重要。